



令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」


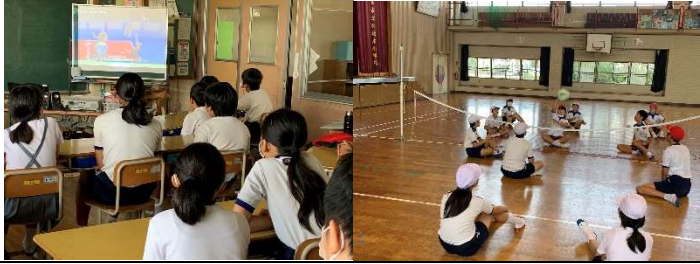
事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 鹿児島県 】

学校名【 始良市立加治木小学校 】

|                    |  |
|--------------------|--|
| 1 実践テーマ            | ①・Ⅱ・③・Ⅳ・⑤（複数選択可）   |
| 2 実施対象者<br>（学年・人数） | 第4学年 44人 第5学年 53人 第6学年 50人   |
| 3 展開の形式            | <p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（ 体育科 ）</p> <p>② 行事名（ ）</p> <p>③ その他（ 総合的な学習の時間 ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>  |
| 4 目標<br>（ねらい）      | <p>○オリンピック・パラリンピックの意義を学び、世界平和や共生社会について考えることができる。</p> <p>○道具の工夫や支える人の存在を知ることにより、誰もがスポーツを楽しむことができたり、公平に競ったりできることを理解できる。</p> <p>○パラ種目を通して、スポーツの楽しさを感じることができる。</p>   |
| 5 取組内容             | <p>(1) 4～6学年（総合的な学習の時間）「オリンピック・パラリンピックについて」の授業実施</p> <p>(2) 5学年（総合的な学習の時間）ボッチャ体験<br/>講師 鹿児島パラアスリートクラブの方々</p>  <p>※体験前には事前授業を実施し、事後は「オリンピック・パラリンピック新聞」作りまで活動を発展させることができました。</p> <p>(3) 6学年（総合的な学習の時間）車いすバスケットボール体験<br/>講師 鹿児島パラアスリートクラブの方々<br/>上村 英俊氏（鹿児島県パラアスリート）</p>  |

|                             |   |
|-----------------------------|---|
|                             | <p>(4) 4学年 (総合的な学習の時間)<br/>         講演「視覚障害者マラソンの世界」<br/>         ガイドランナー・アイマスク体験<br/>         講師 堀内 規生氏 (株式会社カムラック)<br/>         2016年パラリンピックメダリスト 道下美里氏のガイドランナー</p>  <p>(5) 6学年 (体育科) シットイングバレーボール体験<br/>         事前に座学でルール等を学び、ソフトバレーボールの延長として体験を行った。</p>  |
| <p>6 主な成果</p>               | <p>○オリンピック・パラリンピックに関することの理解が深まり、興味関心が更に高まった。<br/>         ○パラスポーツに対する関心が高まり、普段、体育・スポーツへの興味関心が低い子供の意欲が高まった。<br/>         ○障害の有無にかかわらず、スポーツを楽しむことができ、それを支える人や用具の工夫があることを理解することができた。</p>   |
| <p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p> | <p>○講演や実技体験の前に座学を実施し、活動への意欲が高まるようにした。その際は国際パラリンピック委員会公認教材「I'm POSSIBLE」を活用した。<br/>         ○4年生以上の全児童に「オリンピック・パラリンピック学習読本 小学校編」を配布し、個人での課題追求活動に活用できるようにした。<br/>         ○取り組まなかった学年の子供や職員、保護者への取組を広げるために、掲示板を活用して、活動の内容や子供の気付きを知らせるようにした。<br/>         ○アスリート等への質問は、事前に集めておき、重複がないようにし、アスリートが答えやすいように準備した。</p>  |
| <p>8主な課題等</p>               | <p>○パラリンピアンへの理解が、近くにいる身近な友達にも向けられるように、今後も働きかけていく必要がある。<br/>         ○継続的な取組にしていくためや、他の学年へも取組を広げるために、教育課程への位置付けを明確にしていく。</p>   |
| <p>9来年度以降の実施予定</p>          | <p>○今年度の実践を基に計画を見直し、教育課程に位置付けをする。また、各教科で関連する内容を学習していないか情報を集め、系統立てた全体計画を作成する。<br/>         ○今年度の実践を基に、他の学年での実施できないか検討する。</p>   |